

はじめに

遺跡の学び館が開館してから丸2年が過ぎました。この間、18年1月10日には玉山区との合併が実現し、市内で現在確認されている遺跡の数も玉山区の232箇所を加えて全体でおよそ750箇所ほどになりました。その中には、これまで旧市内で確認されていなかった旧石器時代の遺跡として小石川遺跡や大橋遺跡があり、縄文時代草創期の大新町遺跡にかわって盛岡市において最も古い遺跡となりました。当館では、今回の合併を記念して7月から9月にかけて、学び館と渋民公民館（移動展）の2か所で『企画展・玉山の遺跡』を開催し、多くの市民の方々に参観していただきました。

また、学び館では市民に開かれた施設をめざし、体験学習会をはじめ学芸事業などに参加し、活動することを通して、遺跡や文化財に親しみ、市民相互の交流を深め、文化財愛護の輪が広がることを目的に、今年度からサポートーズクラブを開設いたしました。早速、会員への応募があり、研修会等を開きながら、縄文キャンプや体験学習会など様々な場面で活躍していただいております。

平成17年度は、堰根遺跡、宿田遺跡、飯岡才川遺跡、昼久保V遺跡など、市内21ヶ所の開発等に伴う発掘調査と県指定史跡大館町遺跡にかかる学術調査を行い、その資料の整理を実施いたしました。この調査には延べ人数にして一万人を超える発掘調査補助員及び整理作業員の方々の力を借りながら、計画されていた事業をほぼ終えることができました。また、常設展と並行して都南地区と築川・川目地区のテーマ展、第2回企画展「乱世を駆けぬけた武将たち—城館からみた馬淵川流域の中世史—」、第3回企画展「生活の中の考古学—道具からみたくらしの歴史—」、第23回埋蔵文化財調査資料展「盛岡を発掘する」の5回の展示会をはじめ、講演会、学び館セミナー、体験学習会の開催、普及資料の作成等、学芸事業を積極的に展開して参りました。さらに、当市の埋蔵文化財保護行政を進めるうえでの課題でもあったこれまで蓄積された埋蔵文化財にかかる資料管理システムの構築についても、一定の目途がつき、3カ年計画で当市が所管する埋蔵文化財について整理することになっております。

ご承知のように、当館が開設された趣旨は、埋蔵文化財の調査、資料整理、調査報告書の発行といった埋蔵文化財センターとしての基本的な役割の他に、遺跡の学び館が市民の皆様にとって、歴史を学ぶことができる場として、広く生涯学習や学校教育に活用されることを期待しております。特に学校との連携については、児童生徒の当館での学習活動はもちろんのこと、今年度から実施した市教育研究会社会科部会の先生方のご協力を得て学び館での研修会や多くの先生方に参加いただいた公開講座「遺跡・文化財」の開催等を積み上げていくことによって、日常の学校での指導の場に生かされていくのではないかと考えております。

終わりになりましたが、当館の事業の推進につきまして、関係各位の一層のご理解・ご協力とご助言を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年3月

盛岡市遺跡の学び館

館長 三浦 晃